

鎌田浩毅 著
「火山と地震の国に暮らす」

藤 縄 明 彦*

Book Review: Living on the Country of Volcanoes and Earthquakes by Hiroki KAMATA

Akihiko FUJINAWA*

火山学の専門家で、科学の伝道師としても地球科学のアウトリーチの先頭を走り続ける鎌田浩毅さん。彼の、熱き思いを凝縮したエッセイが遂に出た！これは、自然科学の普及啓蒙、アウトリーチを行おうとする人には必読の書となるばかりか、フォーマル、ノンフォーマルに関係なく、教育に携わる人にとっても、貴重な気づきを与えてくれる一冊である。

折しも、東北地方太平洋沖地震によって、地球科学者の胸元には、自らの研究成果や知識を社会にいかにも還元し、自然の猛威による被害を抑える事に役立てられるのか？という問いかけが突きつけられている。換言すれば、地球科学のアウトリーチ拡充が、待ったなしで地球科学者に求められている、とあって良い。そしてアウトリーチは、大人が自体験から得た生きる術のうち、次世代を担う子供に、何をどう伝えていくべきか？という、種の保存策的なものとも符合部が多い点で、非常に興味深い。

自然災害には、火山噴火や地震、津波に限らず、実に多様な地学現象が含まれている。しかしながら、自然科学の分野でアウトリーチ推進を目指す際、成功のために肝要な心得や姿勢の多くが、実は共通しているのだ！ということ、著者は自身の経験や伝道師としての実績から導き出した。そのエッセンスを本書の中にたっぷり注ぎ込んでいる。

最初から読んでみよう。1. 科学を減災に活かす、では、最近の自然災害を例に、地球科学者によるアウトリーチの、減災への重要性が、丁寧に説かれている。博学でよく整理された文章を読むと、知らないうちに彼の世界へ引き込まれていく。2. 火山と地震の国に暮らす、

では、知名度の高い火山の噴火や形成史を中心に、多くの人たちに、長い時間スケールで噴火や火山の形成、変遷史を捉えてもらうため、地学の持つ魅力を活かした、息の長い取り組みの必要性が語られている。ここでは、火山の魅力、彼の火山への思いがちりばめられ、読んでいても非常に楽しい。3. 科学の方法は、これから地球科学者を目指す若者や、アウトリーチを志向する人には是非「心で」読んでいただきたい部分である。地学や自然科学のおもしろさ、時間的、空間的スケールの大きさを、身をもって感じる事こそが、多くの人にアウトリーチするために、最も基本的かつ重要な事である、という、著者の渾身のメッセージが、読者に迫ってくる場所である。4. 「伝える」から「伝わる」へ、では、著者の経験に基づいた、アウトリーチ、教育における伝達の極意が、惜しげもなく披露されている。ここは本書の最もおいしい部分である。地球科学者に限らず、教育に携わる多くの人に是非味わっていただきたい。5. 市民のための科学、では、我が国における地球科学アウトリーチの今後の方向性について、具体的提言を行っている。それぞれの立場で、いかに行動すべきか？についての示唆を与えてくれて、「やってみようか」という気持ちにしてくれる。

本書はオムニバス形式で構成されており、順番に読む必要はない。各々のニーズに従って、読みたい部分から読んでも、しっかり著者のメッセージは伝わるように工夫されている。ただ、どの部分にも、読者に気づきをインスパイアする、魅力的な仕掛けがちりばめられている。だから、どこから読み始めるにしても、ぜひ、全体を読んで、本書に込められた著者の熱き思いを存分に堪能していただきたい。

(2011年7月7日発行、四六判・並製・カバー・198頁、定価1900円+税、ISBN978-4-00-005210-8 C0044、岩波書店)

* 〒310-8512 水戸市文京 2-1-1
茨城大学理学部地球環境科学領域
Department of Earth Sciences, College of Science,
Ibaraki University, Bunkyo 2-1-1, Mito, 310-8512, Japan
e-mail: fujinawa@mx.ibaraki.ac.jp